フリースクール全国ネットワークニュース

FREE SCHOOL NETWORK NEWS LETTER　2016.1.15　No.54

今号の目次

Ｐ１　年頭のごあいさつ
Ｐ２　第８回 JDEC ＆ 第３回多様な学び実践研究フォーラム
Ｐ３　フリースクールフェスティバル 2015
Ｐ５　フリースクールスタッフ養成・研修講座
Ｐ７　多様な教育機会確保法（仮称）について
Ｐ８　事務局より「夏の全国合宿記録集が完成しました」

年頭のごあいさつ

すこやかに新しい年をお迎えのことと思います。昨年は、「多様な教育機会確保法（案）」の法案をめぐり多くの議論がされた年でした。私たちは、これまで学校外での教育を行ってきました。フリースクールの活動をつうじて、子どもへの学びの選択肢を増やすために、２０１６年も、あらためて、家庭での学びも含めた学校外の学びを認める法案の成立に、団体として力を注いでゆきたいと考えています。

また、この法案が議論される過程で、あらためてフリースクールにおける学びとは何か？という議論ができたことを心から歓迎しています。学校の中では、教科学習を中心とした学びが優先されています。実はフリースクールや不登校の親にも「学び」「教育」が子どもを追い詰めるという誤解があります。私たちは、答えが初めからわからない問いを思考錯誤しながら考えてゆくことを「学び」ととらえています。フリースクールの学びの全ては、好奇心を刺激してやみません。

このワクワクする感覚は、失敗さえも許容してゆきます。人はいくつになっても失敗するし、自分の意見を正しいと思いたい衝動にかられます。私自身も、この感覚に陥った時「うわ学校スイッチが入っちゃった！！！」と思います。つまり、私たちの中に公教育の思考や論理は、どこか毛細血管の奥まで入っていると自覚させられるのです。学校は私たちの外にあるのではなく、内なる学校と向き合うことで自分の中の教育が整理されるのだと気づきます。親や一般社会で生きている人たちが、常識を引きずって生きることは、当たり前です。しかし、それに対して自他共にもっと自覚する必要がありませんか？このお騒がせな感覚を自覚しながら議論をすることで、私はいくつもの壁を乗り越えられると思います

16 歳で、高校を中退した私の言葉など誰も聞いてくれないとあの当時は思っていました。いま、私の言葉にふりむいてくれる人がいることに感動をおぼえます。「正しい論理」よりも、必要な議論が、当事者の情熱や言葉が、人を動かす力に変わってゆきます。

私はこれまで多くの無遠慮な言葉に自分を刻まれました。今は、公教育を行う行政も苦しい。先生も苦しい。親も苦しい。フリースクールのスタッフさえもその苦しさから自由であるとは言えません。

今年は、この教育への思いを自由に再編できる年にしたいと考えています。みなさんと楽しい議論ができることを心より期待します。

フリースクール全国ネットワーク　代表理事　江川和弥

第 8 回 JDEC & 第 3 回多様な学び実践研究フォーラム

日　時：2016 年 2 月 6、7 日（土、日）
会　場：早稲田大学戸山キャンパス 33 号館
主　催：NPO 法人フリースクール全国ネットワーク／多様な学び保障法を実現する会

フリネットでは、今年で 8 回目となる JDEC 日本フリースクール大会を開催します。

今回の特徴は、3 回目となる多様な学び実践・研究フォーラム（昨年まではオルタナティブな学び実践研究交流集会）と同時・合同開催となっており、議員立法で学校外の多様な学びに法制化の一歩が開かれることを意識して、より実践レベルでの経験を共有すること、より多くの子どもたちが多様な学びを保障されていくための仕組みづくりを考えあうことに重点があると思っています。

実践レベルでは、1 日目の第 2 パート「子ども参加と学び」において、子どもが経験した学びを子ども自身が発表します。JDEC で子ども若者のシンポジウムなど当事者が発表することは長い蓄積を持っていますが、オルタナティブ教育や研究者・専門家を交えた場ではようやく始まって来たことです。発表の一つは、フリフェスを開催した実践を実行委員会の子どもたちです。「学びを塗り変えなイカ?」をテーマに広い学びをテーマに取り組んだこと、フリースクールりんごの木、フリースクールネモ、東京シューレ（王子、新宿、流山、東京シューレ葛飾中学校）の 6 つの場の子どもたちが共同で企画実行してきたこと、そしてそこからの学びが報告されます。もうひとつの子ども発表は東京サドベリースクールです。2 日目の実践交流はテーマ別分科会。フリースクール等から 2 名ずつの実践報告と 1 名の研究・専門家報告を基本にして交流と参加者どうしの深め合いが進められます。

法制化により仕組みづくりが進んできているのが韓国です。JDEC でも以前、韓国代案教育ネットワークのメンバーを招へいしたり、2014 年には IDEC 韓国大会で学んできましたが、「学校外青少年支援センター」という官民連携の仕組みが進んできていると言います。この仕組みは、私たちが活動するそれぞれの自治体・地域での近い未来に参考になる可能性があります。1 日目の最初のパートで韓国光州市を事例に学びます。代案学校（オルタナディブスクール）の流れだけでなく、各地で子どもの権利条例化が進んだことも背景にあるようです。

2 日目午後は、大阪府立大学の吉田敦彦研究室が行った「全国オルタナティブ学校実態調査」の報告から始まります。吉田さん自身が京田辺シュタイナー学校を創設してきた実践家であり、また大学院生の共同研究者にはフリースクールヒューマンハーバー出身の経験者もいます。

そして、法案意見交換会では、最新の情報をもとに、対話を進めていきましょう。立法の動き、国のフリースクールや不登校の検討会議の動き、実現する会やフリネットなど現場の動きを反映して、すでに教育行政はフリースクールや親の会をパートナーとして協働していく姿勢も見せ、また早稲田大学、大阪府立大学、東京学芸大学では、「多様な学び・教育」を学ぶ科目が開設するなど多角的な広がりが始まっています。幅広く捉え学び合う JDEC・フォーラムとなるでしょう。

（事務局：中村国生）

【開催報告】フリースクールフェスティバル 2015
～学びを塗りかえなイカ? Free school Revolution～

日　時：2015 年 11 月 28 日（土曜日）10：30～16：30
会　場：東京シューレ葛飾中学校
参加者数：約 500 名
参加団体：13 フリースクール

2015 年 11 月 28 日（土曜日）「フリースクールフェスティバル～学びを塗り変えなイカ？フリースクールレボリューション～」（助成：ザ・ボディショップニッポン基金）を開催しました。参加者は 500 名弱、参加団体 10 団体で、北は福島県の寺子屋方丈舎から 10 人程の子ども達がチョコバナナ屋さんを、フリースクール Foro からは子ども達だけで大阪から参加し、大評判のフリースクール紹介で盛り上げてくれました。

子ども実行委員会は 9 月からスタート。毎年、テーマ決めから始まるのですが、今年はフリースクールに関心が集まり、国も動き始めた年だからと、前述のタイトルに決まりました。「学びを塗り替えなイカ？」には、自分達が楽しんで活動しているのを見て、「広い意味での学び」を知ってほしいという気持ちが込められています。

オープニングでは巨大で真っ白な「学」のオブジェがステージに登場。実行委員有志の劇では「一つの学びを押しつけられてきた経験」を象徴的に表現しました。その後に続く「学びを塗り替えプロジェクト」で、来場者参加型でカラフルにペイントされ、エンディングでお披露目しました。この巨大オブジェを作るのは初めてで、だいぶ苦労もあったようですが、提案した子どもも「予想していたよりもずっと素晴らしいものになった」と喜んでいました。

フェスティバルは、出店・販売コーナー、お化け屋敷、カードゲーム、Wii コーナー、カフェ、ライブハウス、ステージ、映像コーナー、鉄道模型、法案について考えるたよまなカフェ、IDEC 報告会、子どもが相談を受ける「子ども相談室」等、盛りだくさんな内容でした。

出店は、それぞれのフリースクールが趣向を凝らして準備していました。僕んちは「紙飛行機カフェ」と題し、天井からつられた輪に紙飛行機を入れるゲームを用意、その参加費は 4 種類の募金箱の中から、来場者が選んで募金するというしくみ。りんごの木は和風喫茶、フリースクールネモはおしゃれなメニューの燻製バー、シューレ中では野外で注文し、2 階の窓から和菓子と抹茶がかごに入って届く「空飛ぶ和菓子」、新宿シューレは壊れたテレビを修理するためのチャリティフリーマーケット。またステージでは元ブルーハーツのドラマー梶原徹也さんも登場して盛り上がり。それぞれの出店や表現から、日頃の活動内容を感じてもらうことが出来たイベントとなりました。

エンディングでは、全国のフリースクールに協力頂いた、子ども達による「フリースクール・不登校アンケート」の結果発表を兼ねた○×クイズもありました。アンケートには 14 フリースクール、約 130 名からの回答があり、学校との関係や家庭での生活のことなどをユーモアも交えながら発表。「今までの人生で死のうと思ったことがある？」という質問には半数近くの人が YES と回答した一方で、「不登校になってよかった」にも 7 割の子が「Yes」と答えていたこと、フリースクールで自分を取り戻した子が沢山いることに勇気をもらいました。

（事務局：力石みのり）

□■

九州地区フリースクール・フリースペース合同運動会＆体力測定

□■

2015 年 9 月 12 日（土）には、長崎市で「九州地区フリースクール・フリースペース合同運動会＆体力測定」も開催されました。（主催：NPO 法人フリースクールクレイン・ハーバー、キリン・子育て応援事業助成）

当日は晴天！でしたが、9 月の九州は台風が来る恐れがあるので、体育館を予約して室内で開催しました。参加は 4 団体 29 名（佐賀：ハッピービバーク、長崎：せかい卵、フリースペース長崎、クレイン・ハーバー）で、赤組・青組・白組の 3 チームに分かれて行いました。

競技は玉入れ、デカパン競争、長縄とび、綱引き、大玉転がし、ムカデ競争、借り物競争、転がしドッジボール、チーム対抗リレーと盛り沢山！混合チームで最初はちょっとぎこちなかった子どもたちも、競技が進むにつれて作戦会議などチーム内での会話も弾む弾む！貸し切りの体育館内に歓声や笑い声が響きました！他のフリースクール・フリースペースの子どもたちが共に喜び、共に楽しみ交流できました。もちろん、各団体のスタッフのみんなも子どもと一緒に全力投球。後半はよろよろしているスタッフも…。

昼休みには体力測定コーナーに自然と子どもたちが集まり、身長・体重・握力・背筋・体前屈などを測定し、お互いの結果を教えあったりしていました。「久しぶりに身長はかったけど、もう少しあるかなぁと思ってた…」なんて声も聞こえてました。

朝から夕方まで、本当に笑顔が溢れた一日でした。今回、来れなかったフリースクールもあるので、来年もまたやりたいなぁと思いました。いい汗かいたぁ～。

（理事・クレイン・ハーバー理事長：中村尊）

【開催報告】フリースクールスタッフ養成・研修講座

日　時：2015 年 10 月 3,4 日（土曜,日曜日）
会　場：北とぴあ、東京シューレ王子
受講者数：49 名

2015 年 10 月 3,4 日（土,日曜日）、東京都北区の北とぴあと東京シューレを会場に「フリースクールスタッフ養成・研修講座」を開催しました。

ネットワーク結成以来 15 回目となる今回の研修講座は、これからフリースクール等で働きたい、不登校の事について学びたいという人に向けた「入門編」のプログラムに特化し、参加者は大学生、フリースクールで働き始めたばかりの若手スタッフ、これからフリースクールをつくりたいと考えている社会人の方等を中心に 49 名、学校やカウンセリングルーム等ですでに不登校の子どもと関わっている方も数名、フリースクールのやり方を学ぼうと参加してくださいました。

プログラムは、例年も行っている「フリースクールとは何か」に「子ども中心の学びの実践紹介」も加えた基礎講座から始まり、「子ども・若者シンポジウム」「スタッフシンポジウム」で実際にフリースクールに通っている子ども、通っていた若者や、今フリースクールの現場で働いているスタッフの生の声を聞いていただきました。「テーマ別分科会」では、「フリースクールからの進路」「『発達障害』と不登校・フリースクール」「困難な状況の子どもを支える」「家庭で育つ ホームエデュケーション」の 4 つのテーマで実施。フリースクールの開設方法や経営に関するテーマは「フリースクールのつくり方・スタッフの仕事」と題し、通学定期割引の申請や在籍校への出席扱いも含めた学校との対応、事業計画づくりや（法人化をした際の）予算・決算報告、活動報告等を中心とした団体の管理運営、不登校の親の会との連携など、直に子どもと関わる以外の仕事について学んでいただきました。

さらに 2015 年は「ワークショップ『今の子どもをとりまく社会』」「参加者プレゼンテーション『私はこんなフリースクールで子どもと過ごしたい』」も実施、受講生の皆様の熱い想いを感じ、全ての子どもが自分らしく学び、成長し、生きていくことのできる社会の実現に向け、確かな手ごたえを感じた 2 日間でした。

（事務局：松島裕之）

□■

九州地区フリースクールスタッフ研修

□■

10 月 24 日（土曜日）には、初の九州地区フリースクールスタッフ研修を、クレイン・ハーバーの主催、フリネットの共催、公益財団法人日本社会福祉弘済会の助成というかたちで、長崎市で開催しました。フリネット主催のスタッフ研には交通費がかかるので九州からはなかなか参加できませんが、スタッフの自己研鑽は必須だと感じていましたし、近隣の仲間と悩みを共有したいと思い今回の実施に至りました。参加者は 6 団体 10 名（福岡：えすぺらんさ、佐賀：ハッピービバーク、熊本：地球子屋、長崎：せかい卵、フリースペース長崎、クレイン・ハーバー）で、フリネット加盟以外の団体や久しぶり

にお会いした方もいました。

内容は、午前中に「多様な教育確保法の進展状況やスタッフとしての課題」をフリネット代表理事の奥地圭子さんが講義。スタッフとして何が出来るか？何をすべきなのか？を奥地さんが具体的に提示して下さり、皆が自分たちに出来ることを考えました。後半の１部は「神経発達症」の講義をせかい卵の川島裕子さんが行いました。医師でも診断しにくい「見えない障がい」について分かりやすく講義され、その後はアセスメントも実施しました。２部はスタッフが抱える悩みを出し合うワークショップをえすぺらんさの上村さんがコーディネート。皆が悩みを書出し、それについての意見を出し合いました。悩みを一緒に考えることで、子どもへの関わり方をふり返ることができ、今後壁にぶつかっても今回出た意見を参考に解決の道を探ることができると思いました。参加したスタッフ同士で相談しあえる関係を築けたこともとても大きな収穫でした。

参加した皆さんが「良かった！時間が足りないくらい！」と言って下さり、夜の懇親会も盛り上がり、「来年も開催したい！」と思いました。

（理事・クレイン・ハーバー理事長：中村尊）

□■

各地での取り組み

□■

2015 年度６月～7 月にかけては、山口県宇部市にて「フリースクールスタッフ･不登校支援者養成連続講座（協力：宇部フロンティア大学　助成：電通育英会）」も開催いたしました。2014 年の神戸市での開催に続き、関東を離れてのスタッフ養成研修は二度目のチャレンジ。宇部フロンティア大学の学生、山口県内のフリースクールや不登校の親の会のメンバーを中心に福岡、長崎、広島など県外からの参加もあり、約 60 名が受講しました。

その他にも、各所で開催されるフリースクール・不登校の親の会・子ども関係 NPO の研修講座、講演会等でも不登校や多様な学びの支援についてお話をさせていただいており、2016 年度からは東京学芸大学で始まる「多様な学びと子ども支援」の講座に代表理事の奥地が講師として決まる等、学校外の多様な学びが公的に認められ、応援される社会の実現に向け、その学びの支援の担い手となるスタッフの養成・研修に取り組んでいます。

2016 年度も、地域でのスタッフ養成・研修講座の開催、講師派遣、資料提供等のご要望がありましたら、どうぞ事務局までご相談ください。

■ご連絡先■
NPO 法人フリースクール全国ネットワーク
〒114-0021 東京都北区岸町１−９−19
TEL&FAX　　03-5924-0525
E-mail　　info@freeschoolnetwork.jp

多様な教育機会確保法について

この法案は、現在文科大臣である馳浩さんが座長として、フリースクール議連と夜間中学議連の合同議連と立法チームで検討が続けられてきたことは御存知だと思います。

それは結構丁寧に行われ、議員連盟の合同総会が 3 回、立法チームの勉強会は 11 回開かれ、ヒアリングもフリースクール関係者、当事者、保護者、教育委員会、教育支援センター、有識者等様々な人から行なわれ、文科省と法制局が必ず同席という上で、各党の議員が意見交換するというものでした。

検討のたたき台は 5 月 27 日に出された座長試案です。そして検討の結果修正された条文案が 9 月 2 日に各党の党議にかけられ、9 月 15 日に 4 回目の議連総会で各党の検討結果を報告、大部分の党は「馳さん頑張って下さい」でしたが、共産党は反対、自民党がまとまらず、「こんな法案が通ったら不登校を助長するようなものだ」という意見も出たそうです。

馳座長としては、与党がまとまらないようでは国会上程は見送らざるを得ない、と涙を飲んでの見送りとなりました。そして、すぐに自民党内の理解を進めるため、フリースクール関係者、教育委員会関係者が呼ばれ、2 度の学習会を開催、3 度目をという所で 10 月 7 日、党内人事で馳さんは文科大臣と決まり、内閣の人となられたという経過です。

その後はずっと正式な動きはなく、12 月 22 日、久しぶりに議連総会が開かれ、新座長に丹羽秀樹前文科副大臣が就任、そのお披露目と進捗状況の報告がありました。馳氏はもちろん、河村建夫議員連盟会長、下村博文前大臣等ずらりと新旧元文科大臣関係の列席でしたが、当日配布の法案資料は 9 月 15 日の議連総会で出されたものと同じ、正式にはまだこれしかないとの説明でした。

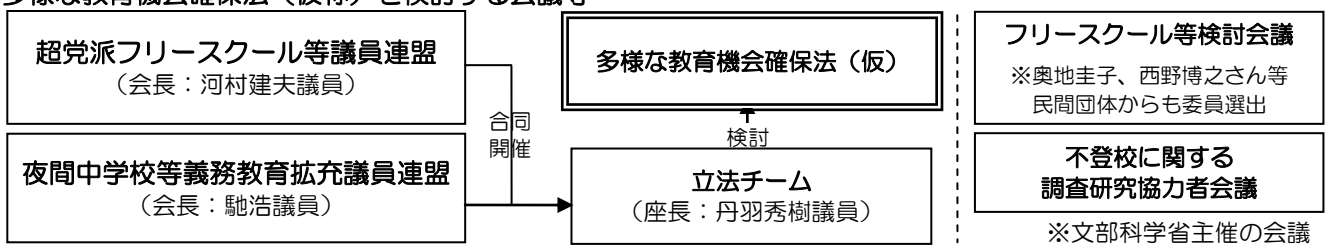
しかし法案はもとどおりでは通らないのでいろいろ検討され、変更したものが年を明けて出てくるのだな、と予測されています。その席では、「11 月半ば頃から誤解も入ったような報道もなされているが、正式にはまだ何も決められていない」こと、法案に対して反対の市民の立場から署名が出されたことも伝えられました。年が明けてからの動きとして、1 月に立法チームの開催、まとまれば 2 月に議連をもち春以降国会へ、という概ねの予定だそうです。

それとは別に、国のフリースクール検討会議は法案の動向を見守っていましたが、久しぶりに 11 月 19 日、12 月 22 日と開催され、2016 年度も続けて議論をすることとなりました。

フリネットは、法案理解のための全国 8 ヶ所開催のキャラバンを行なってきました。10 月 20 日には、早稲田大学にて、「ここまで来た！報告会」の集会を、フリネット、実現する会で開催しました。学校のみでなく、多様で良いではないか、という思いのあふれたラップまで飛び出し、盛り上がりました。当日資料には、最新の条文案やこれまでの経緯が全てまとまっていますので、ほしい方は事務局までご連絡ください。最近では「たよまなカフェ」という少人数の人で身近なところでの集いを広げています。あなたもやってみようかな、という方は事務局までお知らせください。何らかの協力をさせて頂きます。

（代表理事：奥地圭子）

多様な教育機会確保法（仮称）を検討する会議等



事務局より

登校拒否・不登校を考える夏の全国大会 2014 記録集「生きること・学ぶこと」が完成しました。2014 年 8 月 30,31 日埼玉県にて開催された「登校拒否・不登校を考える夏の全国合宿」の記録集です。

注目は、日本の教育研究者の草分けでもある大田堯さんの記念講演「生きること、学ぶこと」、また、子どもシンポジウム「不登校は私の原点」、親のシンポジウム「ゆれて、迷って、今がある」、内田良子さん（心理カウンセラー）、多田元さん（弁護士）、山下英三郎さん（スクールソーシャルワーカー）によるミニ講演「不登校をどう考えたら良いのか」等、2 日間、合計 6 時間 30 分の講演、シンポジウムの記録を凝縮した記録集です。

フリースクール全国ネットワークでは、この冊子を 1 冊あたり 700 円以上の寄付と引き換えに頒布中です。

詳しくは、団体 HP にある「書籍紹介コーナー（http://freeschoolnetwork.jp/book）」をご覧いただくか、事務局までお問い合わせください。

登校拒否・不登校を考える夏の全国大会 2014 記録集「生きること・学ぶこと」 A5 版 110 ページ
発行：登校拒否・不登校を考える全国ネットワーク・フリースクール全国ネットワーク

■フリースクール全国ネットワーク　会員募集中■

フリースクール全国ネットワークをともに創り、支援して頂ける会員を募集しています。総会での議決権を持つ正会員は、当法人の目的と活動に賛同し、ともに活動をつくってくださるフリースクール等の団体が対象。支援会員は、当法人の目的と活動に賛同し、参加・ご支援をしてくださる個人や団体が対象です。多くの皆様の力と知恵を集め、フリースクール等の活動や、そこで学び・育つ子どもたちを支えるため、ご入会をお待ちしております。

□正　会　員□

フリースクール全国ネットワークの活動をともに創っていくフリースクール等の団体

入会金 2,000 円　年会費 1 口 6,000 円（2 口以上）

□支援会員□

フリースクール全国ネットワークや各地のフリースクールの活動を応援する個人や団体

入会金なし　年会費 1 口 3,000 円

□お振込先□

[郵便局から]

普通預金　口座番号　00130 - 5 - 611018
加入者名　特定非営利活動法人
　　フリースクール全国ネットワーク

[銀行から]

ゆうちょ銀行　〇一九支店（ゼロイチキュウ）
金融機関コード：9900　店番：019
預金種別：当座　　口座番号：0611018
口座名　特定非営利活動法人
　　フリースクール全国ネットワーク

■発行・お問い合わせ先■

NPO 法人フリースクール全国ネットワーク

〒114-0021 東京都北区岸町 1-9-19 コーエイビル
TEL&FAX：03 - 5924 - 0525
（毎週平日 9：30～18：00）
E-mail：info@freeschoolnetwork.jp
URL：http://freeschoolnetwork.jp/
Twitter：https://twitter.com/#!/freeschoolnet
FB: http://www.facebook.com/freeschoolnetwork